

山筆

第44号／2008年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail: tsuruwa@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



だんだんと綺麗な姿を現してきた新校舎 (2008年5月27日現在)

表彰状

26回生 野波 博泰

引越しの整理をしていたら、手伝いに来ていた友人が、こんなものがあります、と差出した。

表彰状

野波 博泰

君は昭和廿年四月本校に入学以来蛍雪の榮譽に輝く
今日此の日まで春風秋雨実には六星霜遠隔の地より
通学の身を以てして一日の事故一刻の瑕瑾なく
その巨歩を進め小学校より皆勤十有二年の偉功を
樹立せり是溢るゝが如き家庭の教育に対する熱意の
然らしむるは固よりなれど酷暑物かは寒風何する
ものぞ萬難を排して好學不撓の念に燃ゆる君が
刻苦砥礪(しれい)の賜物にしてその意志の固き
情熱の深き感ずるに餘りあり學業亦常に秀拔衆に
卓絶し孜々勉學の権化と言ふべく至純至高の學究とも
稱すべく正に本校生徒の範とするに足る
依つて茲に君積年の精勵を讃へ赫々の功績を賞す

昭和二十六年二月廿四日

土佐高等学校長

大嶋 光次

このような表彰状を貰った生徒は、土佐中87年の歴史でも僕
ぐらいだろうし今後もあるまい。抜群の秀才は僕らの年次でも
久武・山村等がいた。難しいのは12年の皆勤賞である。

僕も小学校からの優等生だった訳ではない。小学校では手に
負えない悪戯鬼だった。四年生の時、担任の都筑通先生の「お
前はやればできる」という一言が僕の生涯を決定づけた。昔は
そういう先生がいた。

卒業式の時、父は父兄総代として謝辞を述べることになつて
いた。父は佐川の小作農の倅で、家を飛び出して本山の洋服屋
の取次みたいな仕事をしたりして最後は高知通運の監査役だつ
た。尋常高等小学校しか出てなかったが、多芸多趣味の人で、

語や俳句を愛し、本名の柳太郎ではなく俳句の雅号の野波冬天の表札を出したりしていた。小兵ながら講道館の黒帯でもあった。文筆の才もあつた父のことである。晴れの父兄総代としての謝辞にはさぞや推敲に推敲を重ねたに違いない。その、病一つしたことなかつた父が卒業式を目前にして急に寝込んだ。さぞかし残念であつたろう。

東京へは、戦後のドサクサで修学旅行に行けなかつた下の姉も同行した。床に臥せている父の手を握って、行ってくるよと言つた。父の手は冷たかつた。宇高連絡船は雨だつた。横浜の兄の家に着いた翌日、僕は本郷の試験場の下見に行つた。帰ってみるとなにか様子がオカシイ。兄が言つた「お父さんは死んだ。お前には言わないようにということだつたが、どうせわかることだから」と。その夜、兄と一緒に帰る姉を横浜駅に送つて、僕はトボトボと白妙町の兄の家に帰つた。

合格を確認して帰る車窓から見た熱海の桜は満開だつた。

新たまの年を迎えて進学の
吾子みそなわせ産土の神

〈卯之元旦 祈願 冬天〉

関東支部活動報告

事務局長 二宮 潔(49回生)

速報にございます通り、今年も「関東支部総会・大懇親会」は大盛況でした。今年の企画・進行のお世話役は「下1桁8の回生」。今年のテーマは「土佐がこじやんと好きながやき」。

本部・支部の各代表の方々のほか、母校からは池上校長、酒井先生、小村先生、岡田先生のご参加を頂き、今年の記念講演は『こづくん馬路村』の村長、上沼喜司さん(48回)をお願いしました。さらに昨年、同窓生初の高知県知事となられた尾崎正直さん(61回)もご多忙な公務の合間を縫って駆けつけて下さいました。

ちなみに、来年の関東支部総会は6月6日(土)です。ですので、今回ご参加されなかつた同窓各位におかれては、ぜひお出掛け下さい。熱烈大歓迎致します。

さて、今回の(関東支部活動報告の)トピックスは二つ。一つ目は役員改選、二つ目は新校舎建築募金のことです。

関東支部は今年度が役員改選期にあたります。これまで

長きにわたりお世話頂いた副幹事長の山中和正さん(24回)、鶴和千秋さん(41回)、上野典子さん(51回)の3名がご退任され、新たに中村裕子さん(37回)に副幹事長へのご就任を快諾頂くとともに、鶴和さんには顧問として引き続きバックアップして頂くことになりました。そのほかの役員の方々には留任して頂き、関東支部の役員は左記の体制でまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

支部長

泉谷良彦(29回) 留任

幹事長

市川直介(53回) 留任

事務局長

二宮 潔(49回) 留任

副幹事長

佐々木泰子(33回) 留任

中村裕子(37回) 新任

山淵玲子(63回) 留任

町田憲昭(67回) 留任

小松岳志(70回) 留任

会計監査

野村京生(29回) 留任

森木隆裕(59回) 留任

会計

金澤由里(55回) 留任

常任幹事

名簿委員長

川上 司(52回) 留任

筆山編集長

西岡恒憲(41回) 留任
HP編集長
筒井康賢(41回) 留任
総会世話役
西森さと(57回) 留任

顧問

曾和純一(16回) 留任
宮地貫一(21回) 留任
山本高敬(25回) 留任
浅井伴泰(30回) 留任
溝淵真清(32回) 留任
大石和男(40回) 留任
岩村康生(41回) 留任
鶴和千秋(41回) 新任

次に募金協力をお願いです。既にご案内の通り、母校の新校舎建築プロジェクトは来年11月の竣工を目指してスケジュール通り進捗。昨年1月には、



新校舎建築募金委員会が振興会・同窓会・学校からの委員構成で発足、同年4月から5カ年計画で募金活動が始まっています。既に昨年、皆様のお手元にも募金協力のお願いが届いていること存じます。

総工費40億円。同窓生からの寄付金目標4億円、その内、関東支部の目標額は3千万円です。募金スタートからちょうど1年を経過した4月末現在で、募金総額1億6千2百万円(募金件数1833件)、内、関東支部は1千6百万円(目標比54%)となつています。関東支部の目標額まであと半分を切っています。本誌



前々号(「筆山」第42号)にて、泉谷支部長、溝渕顧問(本部副会長)からもご理解とお願いの寄稿がございましたように「皆さん、もうちょっとだけ、良いことしませんか」

よろしく願います。送金方法は次の通りです。

① 四国銀行 潮江支店

普通 0658838

土佐中高等学校新校舎建築募金委員会

② 高知銀行 南支店

普通 0795769

土佐中高等学校新校舎建築募金委員会

③ 郵便振込み

加入者 土佐中・高等学校新校舎建築募金委員会

口座番号 0160014111984

※お願い

・銀行ATMをご利用の場合には、事務局には「カタカナのお名前」しか届きません。銘板の作成、ホームページへの掲載、お礼状の送付などに必要な「回生・ホーム・住所・氏名(漢字)などをメールやFAXなどでお知らせ頂ければ幸いです。

・郵便振込みの場合には、通信欄に回生・ホームをお書き下さい。

・事務局から振込み用紙をお送りする場合以外は、振り込み手数料はご負担下さい。

・現金書留による送金や学校窓口での現金による受付も行っております。



・新校舎建築プロジェクト
<http://www.tosa.ed.jp/index.html>
をご参照下さい。



筆山編集会議余話

吉井雄二(49回生)

49回同期の二宮幹事長と二晩続けて飲んだ翌4月23日(水)に、筆山次号の巻頭言を依頼されました。「何でも、他にいっぱいええ人がおるろうがえ。書くことらあ何ちやあないでえ」とは言うたものの、原稿料は前払いしたで、と言われた顛末です。皆様、ただ酒にはくれぐれも注意しましょう。

4月21日(月)の夕方、二宮幹事長から「今、サンケイビルで会議が終わった。時間あるかえ? 筆山の編集会議まで時間があるき、ちよつと付き合いや」の携帯。そうかえと軽くビールを2杯飲んで「じゃあね」、が、別れ際に「編集会議に永森裕子さん(44回)がイタリア土産のワインを持ってくるよ、顔出しや」の誘惑。(永森さんじゃのうて)高級ワインに負け、会議終了時刻を読んで市ヶ谷に。

まさか、とはいえ、やつぱり、議事進行を円滑に行なうために潤滑酒付の土佐流会議の真っ最中。が、そこはそれ、

土佐流にすぐに溶け込み、フィレンツェ・マンマ永森さん持込のトスカーナ高級ワインを勧められ、「皆様お久しぶり、永森さんお帰りなさい」でまず1杯、「これは美味しいですね」で2杯目、「さすがです」で3杯飲んだら、味わつて飲んでいた通の藤宗さん、「おい、待て待て、1本しかない貴重品を、ビールみたいに飲んで・・・」、時すでに遅し。

本来は、佐倉アスリート倶楽部小出義雄代表のエピソード、有森裕子さんのメダル獲得からガブちゃんとの結婚、鈴木(伊東)博美さんの五輪落選と世界選手権金メダル獲得まで、Qちゃんのリクルート入社から小出監督からの旅立ちまでの心模様。プロゴルファー石川遼の小学生時代からの思い出など等を始め、スポーツ紙にはない、筆山巻頭言に相応しい格調高いものを予定していましたが、字数の制限もあり、次回の機会に譲ります。きつとこないでしうけど・・・。

「筆山編集人呟く」次号はきつと巻頭言ではなく、字数の多い別なページに登場することになるでしょうな」

平成20年関東支部総会・大懇親会

平成20年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び講演会・大懇親会は、5月31日(土)、品川インターシティ・ホール棟にて行われました。関東支部総会史上最多の340名余の同窓生が参集し盛大に挙行されました。

母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。

また高知県知事に当選されたばかりの尾崎正直知事(61回)を来賓としてお招きし、総会の席上で「就任の挨拶」という題で、今後の高知県政について熱く語っていただきました。



今年の記念講演は、今、高知県だけでなく全国的にも、もっとも元気な村、馬路村村長の上治堂司村長(48回)の「馬路村の地域資源を活かしたブランドづくり」と題する講演でした。馬路村の限られた地域資源(柚子製品、自然温泉、他)を最大限に活かして村全体を徐々にブランド化してゆく苦労話をユーモアを交えて約一時間語っていただきました。同窓生一同熱心に聴講いたしました。



今年は8の回生(28、38、48、58、68、78)の同窓諸君による総会・懇親会の運営がなされました。

大懇親会



宮地本部長の開宴の挨拶のあと来賓紹介が行われた 司会は58回生



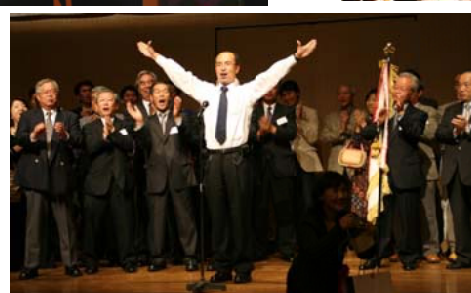
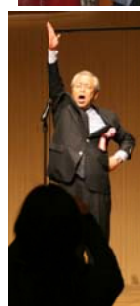
→乾杯の音頭は尾崎知事



壇上で今年卒業の83回生が紹介された。
83回生は40名以上出席の大フレッシュマン集団



(5)



最後はエールと校歌斉唱

8の回生から9の回生への総会幹事引継ぎ式。来年は宜しく！

母校だより

学校長 池上武雄（28 回生）

皆様にはお変わりなくご清勝のこととお慶び申しあげます。

いつも母校に熱い思いをお寄せ下さり、格別のご支援を賜っておりますことを心から感謝申しあげます。

◇大学入試結果について

本年卒業の 83 回生は、未履修問題をよく克服し昨年輝かしい成績を残した 82 回生に続

	20 年度	19 年度
現役合格率	72.8%	81.1%
国立難関10大学	55名（現31名）	63名（現39名）
国公立医学部 （医学科）	21名（現11名）	24名（現14名）
早慶上智	59名（現30名）	51名（現34名）
関関同立	185名（現111名）	205名（現142名）

（注）難関10大学（北海道・東北・東京・一橋・東京工・名古屋・京都・大阪・神戸・九州）

く好成绩を挙げてくれました。これからもこの成果を定着させるようさらに頑張ります。

◇高校県体の成績について

5月17日から第61回高校県体が開催され、本校からは18種目337名（男241名、女96名（含む水泳）競技は6月）が参加しました。県下の参加校は52校、参加人員5938名（除く水泳）の中で本校は昨年に続き最多参加人員でした。

優勝は、バドミントン男子（団体・複・単（三冠））、テニス女子（団体・複・単（三冠））、ハンドボール男子、空手個人女子、自転車個人男子（追い抜き・1キロタイムトライアル・スプリント（短距離三冠））、柔道男子個人81キロ級・90キロ級・100キロ級、陸上女子400メートル障害、それぞれ優勝を飾ることができました。本年度は、7月28日から埼玉県で「彩夏到来08埼玉総体」が開催されます。高知県の代表として、また母校の名誉を担う活躍を大いに期待しているところです。

◇新校舎建築プロジェクトの進捗状況について

第一期工事（高校棟及び体

育館建設）は、厳しいスケジュールにもかかわらず順調に進められています。この6月20日には引渡しが予定され、高校生及び教職員は6月28日、30日の3日間で新校舎に引越しいたします。

建築工事の進み具合は、山口喜久先生が逐一写真に撮って本校ホームページ（新校舎・工事現場）に載せておりますのでぜひ検索のうえご覧下さい。

なお、今春卒業した83回生の皆さんは残念ながら新校舎に入居できませんでしたが、新高校棟の免震ピット（地階部分）に記念の寄せ書きをして母校への思いを書き残してもらいました。

建築プロジェクトの今後の工程は、8月21日から第二期工事に入り旧中央棟及び高校棟を取り壊して中学棟を建設、平成21年6月に完工して建物関係は全て終了します。その後旧中学棟、旧体育館を取り壊して運動場として整備し11月に全て完工する予定です。

◇新校舎建築募金活動について

昨年4月より5年間で4億円の募金額を目標としてスタートしました募金活動は、多く

の同窓会の皆様はじめ振興会そして広く一般の方々や法人関係にもお願い申しあげ、ご協力をいただいておりますことを感謝申しあげております。本年3月末現在では、1783件一億五千八百拾三万円のご寄付をいただきました。今後ともなお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

暑さに向かう折柄皆様のご健勝、ご活躍を祈念申しあげ近況報告とさせていただきます。（平成20年5月末）

本部だより

副会長 北村惠美子（47回生）

去る5月31日の関東支部総会・同窓会が大盛会のうちに開催されましたことを喜び申し上げます。新しく83回生を迎え、350人もの同窓生が集い、旧交を温めることが出来たことは、遠く故郷を離れ日々活躍の皆様にとつてひとときのオアシスではなかったでしょうか。このように、関東支部の皆様には、土佐高同窓会を盛りたてていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。さて、高知では新しい出来

事が次々ありました。

まず、新知事の誕生です。

ご存じのように土佐高61回生の尾崎正直氏が、県民の絶大な期待を一身に背負って、厳しい高知県政浮上のために日々頑張っておられます。

次に、高知駅舎が取り壊され、高架になった新駅舎が目見えました。四国初のチケツスルーの機械も導入され、慣れない高知県民は戸惑っております（笑）。

三つ目は、土佐高野球部が37年振りに春季大会で優勝し、その後のチャレンジ戦で明徳を破りました。この夏、甲子園で校歌が聴けるのでは！と期待が高まっております。

そして、四つ目は、新校舎の高校棟と体育館が5月27日、その姿を現しました。（土佐中・高のHPの新校舎関係をご覧ください。）6月末には、高校部分や職員室等の引越しが行われます。また、夏休みには現校舎の中央棟、高校棟の解体が始まります。（余談ですが、私たち47回生は、現校舎に最初に入った学年です。そして、今年卒業した娘たち83回生は、現校舎の最後の卒業生となりました。偶然とはいえ、縁を感じます。）

そのような状況の中、今年の同窓会総会は、8月16日(土)、母校での開催ではなく、新阪急ホテルで行うこととなりました。ただし、その前に学校のご協力をいただき、内覧会を開催する予定です。是非、今年のお盆は新校舎を見においで下さいね。(詳細は最後に記します。)

続きまして、新校舎募金の集まり状況をご報告致します。募金活動も2年目に入り、5月10日現在で総額1億6221万7789円となつています。目標額は4億円ですから約1年2か月で4割強達成したことになります。本当に有り難く感謝申し上げます。とはいえ、募金をしてくださった同窓生の人数は約1割強という状況から考えますと、やはり、今後の募金活動は出来るだけ多くの同窓生にしたいとのこと、一度して下さった方に毎年少しずつ増やしていただくこと、また法人関係に強く働きかけることが必須となりましよう。努力していきたいと思ひます。どうか、今後とも宜しくお願い致します。

最後に、今年卒業したばかりの83回生の話題をひとつ。

3年前79回生が立ち上げた、よさこいチーム「陽」を昨年の81回生から引き継ぎ、只今準備に奮闘中です。地方車を操るのは、83回生の学年主任・岡田容典先生(47回生)。

8月のよさこい祭りで「陽」を見かけたら、どうか声援を送ってやって下さい。

★今後のスケジュール★

7月14日

解体式(現校舎玄関前)

8月16日

新校舎内覧会

午前10時～

午後1時～3時

総会(新阪急ホテル)

午後3時30分～4時30分

講演会(68回生・北古味氏

武政氏) 午後4時30分～

懇親会 午後5時30分～

北海道支部だより

幹事 森木潤一郎(41回生)

高知生まれの小生にとつては、北海道は憧れではありませんが土佐より最も遠く、土佐高校に在学中は北海道に行くのは生涯のうちせいぜい旅行で1回か2回行くのが精一

杯と思っておりまして。しかし会社の都合で北海道に転勤となり、苫小牧市に2年、札幌市に2年、都合足掛け4年住むこととなり、いざ住んでみて、実際聞くと見るのとは大違いで、幾つか、自身で体験したことを下記に述べさせていただきます。

まず何といつても実際生活するうえでシンドイことは冬の間の雪の問題です。同じ北海道といつても札幌と苫小牧では車で約1時間の距離ですが、苫小牧の降雪量は札幌と比べ大変少ないのでそれほど気にはなりませんでしたが、札幌地区は日本海気象の影響をもろに受け雪が大変多いところ。毎年11月下旬から雪が降り始め、それが全部解け終わるのは翌年4月中旬になつてからです。ただ、その期間毎日雪が降っているかというところではなく、大体3日に1回くらい感じでしょう。

雪が降って何が困るかという、一軒屋の場合はまず朝起きて家の前の雪かきから始まり、そして車の上に積もっている雪をはね、カチンカチンに凍っている窓ガラスの水を暖房で暖め溶かす、とい

た作業があり、それら全部で約60分～90分くらい要します。それから朝ご飯を食べ、車で通勤、ということになります。会社に到着したらぐったり、という状況です。

また会社から帰つてくると、車を車庫に入れる為再び雪かきをして車を入れなければなりませんし、家の前には雪がごそつと積もつていますので、それをかなければなりません。それに要する時間は約60分、つまり雪が降る日は一日に2時間～2時間半の過酷な強制労働が待ち受けているということになります。

高知では寒さで車の窓ガラスがパリンパリンに凍りつく、といったことはまずありませんが、北海道ではこうした労働が待ち受けています。もっとも冬の間は体を動かす機会が少ないので、体にとつて良い運動になるというとはいえますが、腰が痛くなるといった欠点も生じてきます。それと怖いのは道路がパリンパリンに凍結している場所もあり、車の運転の際はそういうところを通る際は大変注意せねばなりません。というのもアイスクレータートリノクの上を走っているようなもので、ブレー



北海道支部のメンバー。右から2人目が筆者

キをかけてもすぐ停止せず、ツートすべるからです。そのようなところに来ますとみんなも良く分かっており、スピードを落とすしゆつくり走行していますが、急に前の車が止まったりしますと、追突しないかどうか、ハラハラします。また歩道がアイスバーンになっている場合は絶対ポケットに両手をつまんで歩いてはなりません。ツルつとすべって頭を強打するからです。現に冬の間に数人の方が頭を強打し亡くなつています。

このように冬の暮らしは大変ですが4月下旬～10月末にかけての北海道は大変快適です。まず内地では3月～4月

にかけては花粉症の時期ですが、これがありません。3月中旬東京に出張しましたが、その時羽田に降り、本社に行くまでの僅か1時間の間に目がかゆくなり、くしゃみは出るといった具合で散々でしたが、北海道に帰ってくるや否やそれがストップし、助かりました。また6月の梅雨時期もこちらではそれがなく、湿度もそんなに高くなく快適に暮らせます。

このように北海道生活も内地と比べマイナスイ面もありますが、プラス面も多く、小生の全体評価としては80点(合格ライン)くらいだと思います。昔より「住めば都」という言葉がありますが、小生のこの4年の印象としてこの言葉は的を得ている、と感じております。

そんなこんなで4年間の北海道生活の印象を述べさせて戴きました。

東海支部だより

幹事 山崎博司(44回生)

関東支部の皆様こんにちは。東海支部の近況などについてご紹介いたします。

去る5月17日に名古屋駅近くのホテルにて平成20年東海支部総会を開催しました。総会には遠路、母校から池上校長先生、岡内同窓会副会長、関東支部から泉谷支部長、また、上治馬路村村長などのご来賓の方々に、ご出席いただき、誠に有難うございました。

総会は、久保地支部長のあいさつで始まり、校長先生からは着々と進む新校舎の建築状況、春季高校野球県大会での優勝、昨年に引続き好成績の大学入試結果などについての説明がありました。また、来賓の方々からは各支部の状況などについて紹介があり、その後、乾杯、歓談と続き、参加者は30名弱と少人数ながら、和気藹々のひと時を過ごすことができました。

さて、原油高を始めとする原材料費の高騰、アメリカ経済の減速、ドル安円高が心配される昨今ながら、東海地方の産業は、ご承知のとおりトヨタ自動車等の輸送機械工業を主力とする製造業が堅調です。さらに、名古屋周辺には、三菱重工業、川崎重工業、富士重工業の航空機関連工場も立地し、ボーイング787の主翼等が生産されており、航



空宇宙産業も重要な産業となりつつあります。なかでも、三菱重工業は、YS-11以来の国産旅客機となる三菱リージョナルジェット「MRJ」の開発に向けて動き出し、注目を集めています。

また、「元氣な名古屋」を象徴するかのように、名古屋駅前には、近年、高層ビルが次々と建設されており、本年はモータースパイルタワーが完成しました。JRセントラルタワーズ、名古屋ルーセントタワー、ミッドランドスクエアとともに駅前のランドマーク的存在となっていま

す。

ここで、愛知の観光について少しご紹介しますと、尾張徳川時代以来の「モノづくり愛知」の伝統は祭りの山車(だし)にも受け継がれています。からくり人形を乗せた山車といえは高山祭の屋台が有名ですが、愛知県内は山車の宝庫となっており、半田市、犬山市など各地の祭りでは多数の山車が登場します。

また、名古屋市内にも数多くの産業観光施設があり、名古屋駅から、名古屋城、産業技術記念館、ノリタケの森、徳川園など市内の施設を巡る観光ルートバス「メーグル」も運行されています。是非一度、名古屋にお越しください。最後になりましたが、関東支部のますますのご発展と同窓生の皆様のご健勝を祈念して東海支部だよりとさせていただきます。

関西支部だより

「支部総会に参加して」

幹事 萩野麻里(81回生)

4月19日(土)、関西支部総会・同窓会がシェラトン都ホテル大阪で開催されました。



今回、私は二度目の参加ですが、昨年は私を含め学生は2名だったのですが、今年は十数名の学生が参加しました。

大先輩方を目の前にとても緊張していたのですが、私たち学生に気さくに話しかけてくださり、先輩方の温かさがとても嬉しかったです。このような機会がなければ直接お話しすることができなかった土佐中・高の大先輩方とお会いできて大変貴重な時間を過ごさせていただきました。私たちが過ごしてきた6年間と、私たちが知らない先輩方それぞれの6年間があるという土佐の歴史、そしてその歴史が

これからもずっと続いてゆく、このつながりを実感することができてすごく感動しました。

また、関西という土地で土佐弁や土佐料理、よさこい踊りなどたくさんの高知県を感じられたこともとても新鮮で心が和みました。県外に出てみて改めて高知県の良さ、土佐の良さを痛感し、この土佐とのつながりはこれからもずっと大事にしていきたいと思いました。

さて、先輩方のお話を聞いていて思ったのはもつと教養を身につけたいということですね。一つ一つの言葉にもすごく学ぶものがあり、ずっと聞き耳をたてていました。これから社会に出て行く私たちにあって、すでに社会で活躍されている先輩方のお話は大変いい刺激となり、今の自分を見つめ直すいいきっかけにもなりました。

今年は私たち81回生に最後の挨拶をさせていただきました。まだまだ未熟ですが、元気だけはありますのでこれからもこの勢いを忘れずに、先輩方の刺激を受けながら一歩一歩成長していきたいと思えます。これから卒業される在校生、そしてまだ同窓会に参加

加したことがない学生のみならず是非参加してみてください。

広島支部だより

「ある郵便配達人と竹村先輩」

幹事 川崎一仁（50回生）

私の父は今年81歳になりましたが、わりと元気で、今高知市内でひとり暮らしをしています。母が早く亡くなったため、もう30年以上ひとりで暮らしをしております。その父は若いころ、戦前の話ですが、郵便配達をしていたそうです。池川町の山の中を、一軒一軒自転車、小包やらなんかをいっぱいくりつけて行っていたそうです。荷物は重いし、ほとんどが坂道なので押して行くのが大変だったそうです。当時、バイクは池川町に1台あったそうですが、当然のことながら、郵便配達は自転車のみで、それもタイヤの配給がなかなか回ってこず、それは苦労をしたそうです。

何とか回復したそうです。ところがずっと休んでいたのも、郵便局はやめざるを得ず、その後、他の仕事に着き、結果的にはそれなりの人生を無事に送ってきたのですが、いまでもよく郵便配達の苦労を口にします。

父は郵便局の民営化は反対でした。「山の田舎の郵便局はのうなる。」と。いま私は広島にいて、最近なんとなく郵便局のサービスがよくなったような気がします。わたしの職場に来てくれる郵便配達の方は、若くはないのですがきれいで、とても感じのいい女性です。私の職場と自宅は近いのですがいつも遅くまで職場にいるため、自宅によく不在配達のお知らせが届いておりましたが、その方は、「あそこの川崎さんですよ」と声をかけてくれて、親切にも、不在配達にならないように、私の自宅分の郵便も職場に持ってきてくれたりします。

以前私、竹村さんと一緒にお仕事していました」と、広島高等検察庁に勤務していたころの話を始めました。私宛の竹村照雄先輩（20回生）元広島高検検事長）の年賀状をたまたま見て、話したくなったとのことでした。お互い仕事中でもあり、あまり長く話できませんでしたでしたが、ここにも竹村先輩のファンがまた一人いたと嬉しくなりました。と同時にそんな竹村先輩と広島と同窓会で出会えてよかったなとしみじみ思いました。

香川支部だより

「メモリアルイヤー」

幹事 谷脇 守（48回生）

こんにちは。香川支部の谷脇です。「関東支部の皆さん、ご無沙汰しております」と言いたいところですが、かつて

の東京勤務（平成元年から平成5年まで）時代、総会には4年間で、たぶん一回ぐらいしか出席しておりません（最近、記憶がよりあやふやになってきました）ので、「はじめまして」と、ごあいさつさせていただいた方がいかと恐縮しております。

さて、香川支部の活動を紹介させていただきます。といっても、皆さんご承知でしょうが支部の最大で、唯一と言っているイベントは総会です。

香川支部の総会は毎年7月の第一土曜日が恒例で、19年度は7日の七夕総会となりました。7人のご来賓も含め46人が出席し、懇親会で大いに盛り上がりしました。その理由の一つがロケーション。会場が「高松シンボルタワー」とい



う、文字通り高松駅前再開発の象徴的な超高層ビル（30階建て）の17階。瀬戸大橋はもちろん、瀬戸内海を見渡せるかという大パノラマは、六本木ヒルズの眺望に負けていない（といっても当方ヒルズに昇ったことがあります）と思っております。

私は高松単身赴任2年で、香川支部では新参者。これ以上支部の話をしているとボロが出るかもしれませんので、この瀬戸内海にちなんだ香川の話をさせていただきます。ことは、いろんな意味でメモリアルイヤーとなっています。まず、瀬戸大橋が完成20年「成人式」を迎えました。車の通行を止め、橋を開放し



たマラソン大会など記念行事をニュースでご覧になった方もいらつしやるでしょう。

「二十四の瞳」で知られる小豆島は、もうひとつのシンボルといえるオリブが、こうした植栽から100年。ちよつとコアな話題では、ハマチ養殖は香川県が発祥の地で、その養殖に成功して80年。瀬戸内海とは関係ありませんが、香川の手仕事の代表格・手袋も製造開始100年といろんなメモリアルで、地方の中ではそこそこ活気づいているようです。ことは、母校も校舎建て替えというメモリアルイヤー。その新たな息吹に同窓生も活力をいただきたいと個人的に思っております。節目といえば、私もOBの

一人であるサッカー部が来年60周年を迎え、記念行事を計画中です。一文を終える前にごく身内の話題で恐縮ですが、紹介させていただきます。最後に、高松は、「夏暑くて（風が吹かない）、冬寒い（海風が強烈）」のを除けば、大変暮らしやすいところです。連絡船がなくなり、列車で帰省するにしても高松は縁遠くなりましたが、機会がありましたらお立ち寄りください。多島海に沈む夕日を借景に飲むビール、ワイン、ウィスキー、カクテル、日本酒、焼酎、ウーロン茶・・・（要は、お好みで）は格別です。会員一同、お待ちしております。



季節のふるさとの味
土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

速報！原宿

スーパードライ

夏を彩る原宿スーパードライ
こい祭りに、お馴染み「ロツテ・ガーナよさこい連」が4回目の出場を果たします。

ガーナから来日の男女高校生20名と都内高校生との連合軍が中心の踊り子隊には、鎌田先生引率のわが土佐高生も加わり、更に関東支部のきれいだころが花を添えるとか。
8月24日（日）正午スタート。

詳細は

www.yosakoi-tarajuku.com

公文敏雄（35回生）



「江戸子ども百景」

編・中城正義 江戸子ども文化研究会主宰（30回生）
河出書房新社 A四版九六ページ 定価二八〇〇円

お悔やみ申し上げます

12回 島田純一郎
33回 川島章弘
34回 徳弘英策
40回 川淵啓司
H 18-12-1
H 19-7-27

【母校及び同窓会本部・各支部一覧表】

土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosaobog.com/

同窓会北海道支部 事務局長 島村昭範 〒004-0074 札幌市厚別区厚別北4条3丁目14-8
(E-mail) shima49n@yahoo.co.jp

同窓会香川支部 事務局長 武山正人（担当：大石浩） 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力（株）
(TEL) 050-8801-2720 (FAX) (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp

同窓会広島支部 事務局長 山崎通子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210
(TEL) 082-227-2656 (FAX) 082-227-2656 (Email) myamazaki@dion.enjoy.ne.jp (HP) http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内
(TEL) 090-1073-7822 (FAX) (E-mail) harada73@hotmail.com (HP) http://www.tosa-ko.org/kansai/

同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市中天白区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301
(TEL) 052-837-5834 (FAX) (E-mail) jjingmu-m@crux.ocn.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内1丁目6番5号丸の内北口ビル
森濱田松本法律事務所弁護士市川直介気付
(TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com

岡崎のおんちゃんのおい出話(五)

23 回 生 岡崎昌生

昭和十七年(1942)四月、入学した。丁度前の年の十二月、日米の戦争が始まり、新聞、ラジオでは連日戦争のニュースを華々しく伝え、軍艦マーチの音曲が流れていたが、高知の町は平和そのものであった。

学校は、地番「高知市春野町九十三番地」にあった(現在の春野とは異なる)。土電「梅ヶ辻」下車、徒歩約五分も文字どおり筆山の麓、田んぼの中にひろがっている家々の中に二階建ての白亜の校舎が向陽の空に輝いていた。新入生六十七名、入学式を終え、一同先生に引率され、潮江の天満宮に参拝した。学問の神様であるので、よく勉強が出来ますようにとお祈りしたと思う。

◇一年から四年(終戦)まで
一年生は、天下りの方三名を加え七十名が三十五名ずつ二組に分かれて授業を受けることとなった。当時、土佐中では通常の四年分の教課を三年で終了、四年はもつぱら進学向けの勉強に当てられるといわれていた。

地理、歴史、物理、化学をはじめ、体操、軍事教練を含めて、一般科目も万遍なく行われたが、やはり英数国漢に重点が置かれていたように記憶する。英語は、初めてでもあり、珍しく一言一句聞き漏らさないよう注意した。数学は、代数と幾何に分かれたが、かの有名な吉本カマス先生の鞭とトンガリ口の叱咤により、その内容が良く理解できた。

土佐中学校へ入学のころ

漢文も初めてであったが、漢字でもあり、国見ヘンボ先生の独特の口調が魅力的であった。国語の樋口一治先生からは常山紀談を教わったが、その背景の戦国・江戸初期の歴史などの授業が特に興味深かった。残念ながら先生は、翌年二月肺炎で急逝され、安楽寺でのご葬儀には生徒全員が参列した。

以後、二年・三年の一学期までは勤労奉仕といつて、クラス単位で年に何回か一週間か十日の日程で、農村の土木工事や麦刈り、草刈りの手伝

いに行く程度で、やはり主たるものは学校の勉強であった。ところが、三年二学期にいたり、学校を離れ「勤労動員」の名の下に、日章村の海軍飛行場(現在の竜馬空港の場所)の整備に駆り出された。兵舎に泊り込みで、毎朝六時前水兵さんの総員起こし五分前の連呼に目覚めさせられ、一日中土砂運搬のモッコかつぎをやったが、現在ならダンブー

台分に、どれだけの人力を費やしたことだろうか。

翌昭和二十年、今度は高知の町工場(軍需工場に転用)で出征その他でわずかに残った工員さんの指導を受け、工作機械を操作していた。その間七月四日の高知空襲の日、校舎は全焼、そして八月十五日の終戦の日を迎えることとなった。

◇終戦から卒業まで
勤労動員から解放され、二十年九月から学期が始まる事となったが、校舎が無い。そこで、山田、佐川など各地で

の分散授業となり、私どもは大阪の舟戸小学校に土電で通学した。当時は、教科書もなく、先生方がご自分で教科内容をガリ版で印刷され配って下さった。後から考えて、誠に頭が下がる思いである。この間、校舎再建のための材木を桟橋から大八車で焼け跡まで運んだりしたが、おかげさまで、二十一年夏、仮校舎が落成し、二学期から久し振りで全校生徒が一堂に会し、本格的な学校教育が再開された。私どもは、すでに最上級となっており、波乱の五年の中学生生活を終了した。

◇昭和という時代

昭和元年十二月二十五日の昭和天皇のご即位から昭和六十四年一月七日の御崩御まで実に22660日の長い日数である。

昭和初期は、相次ぐ戦争の時代であり、昭和十九年からアメリカ空軍による国内都市への焼夷弾爆撃、そして遂には広島、長崎の原爆投下により神国日本、不敗の国日本の神話思想は脆くも崩れ去ってしまった。

敗戦後、連合国による占領、戦後の荒廃の中から立ち上がり、昭和三十年には「もはや戦後ではない。」といわれるように復興した。以後経済重点政策がとられ、東京オリンピック(昭和三十九年)大阪万国博覧会(昭和四十五年)など国際社会にも伍し、二度の国際的石油危機を乗り切ったが、昭和末年、土地価格・株価の異常高騰、いわゆるバブルに遭遇し、その崩壊とともに経済は停滞の時期に入った。その後、ようやく持ち直し安定した状況にあると考えられるが、日本社会、国民生活が昔に比べ豊かになったことは事実であろう。今後とも

平穏な推移を望むや切である。



横浜の自宅にて

高知工科大学は、世界一、人が育つ大学です

高知工科大学副学長

簡井康賢（41年生）

去年の4月1日から、高知工科大学の副学長をしています。副学長は2人いて、わたしは主に産学連携が担当で、産学連携本部長、総合研究所長、連携研究センター長という役目も貰っています。

昭和52年に大学院の博士課程を修了して当時の通商産業省工業技術院機械技術研究所に入り、省庁再編の一環で工業技術院の15の研究所が統合されてきた産業技術総合研究所を退職するまで30年間在籍しました。最初の18年は蓄エネルギー用のフライホイール、風車、セラミックガスタービンなどの研究をし、あとの12年は企画室長や次長（副所長）、産業技術総合研究所（産総研）になってからは理事などもつばら研究所のマネージメントに関わっていました。とくに平成15年4月からの3年間は、産総研の理事兼中部センター所長として産総研の「ご用聞き」としてたくさん

の企業訪問をしてきました。その経験を活かしてしっかりと産学連携をやるうと高知の企業まわりをしています。それに加えて、平成19年4月の

高知工科大学の入学生は1000人の定員割れをしたことから、岡村甫・前学長（32回―東大工学部出身、伝説の神宮のエース）からは、学生集めの手伝いもするようにと命じられ、県立高校など県内の高校もずいぶん回り、県立高校の教頭研修会と進学担当者の会合でそれぞれ講演する機会を頂きました。

今、少子化、理科離れ、それに理工系大学の授業料は文系に比べて2倍近くも高いことなどで、地方の私立工科大学は学生集めに非常に苦労をしています。事実かどうか確認はできていませんが、「国立大学が法人化され、国からの運営費交付金が年々削減され予算が苦しいので、授業料収入を稼ぐために、国立大学法人として許されている定員の3割増しいっぱいまで学生を受け入れており、私立大学にとっては少子化の影響を加速している」と他の私立大学の教授から聞いたこともあります。



岡村前学長は高知工科大学を「世界一、人が育つ大学」と言っています。実際に高知

工科大学に入学した学生が、4年間でどれだけ育ったかを、4年生の3月に開催される日本機械学会の中国四国支部の卒業研究発表会の数年分のデータから調べてみると、発表件数も優秀発表賞の受賞数も中国四国の国立大学と遜色がありません。そんな話を県立高校ですと、高知工科大学に進学した生徒と国立大学に進んだ生徒の学力差は、県立高校の先生らは実感としてわかっているだけに、

高知工科大で4年間学んだ学生がどれだけ伸びたかは即座に理解して貰えます。しかし、そうい

うことはわかって頂いても、実際に「高知工科大学へ行きなさい」と進路指導をしていただくのは難しいのです。「親も子も国公立大学への進学を希望しています。高知工科大学がしっかりした教育をしていて生徒が伸びることがわかっていても、高知工科大学に行きなさいと言えませんが」と言われてしまうのです。

08年2月21日の高知新聞朝刊1面トップに「工科大来春にも『県立化』」とスクー

プ記事が載りました。実際、高知工科大学は、現在の私立大学法人から来年4月に公立大学法人に衣替えするように準備をしています。実現には公立大学法人の定款を準備し、高知県議会での議決が必要ですが、来年4月には公立大学法人になると信じています。

この高知新聞の記事掲載以降に工学部の第3次センター利用の入学試験が行われました。この最後の入学試験の前には、今年も前年同様の100人近い定員割れかと予想していましたが、在校生も授業料が安くなる来年からの公立大学法人化をねらって昨年の試験の2倍半近くの受験生が押し寄せて一挙に半分の50人の定員割れになりました。

県立化（＝公立大学法人化）すれば、授業料がこれまでの半分以上になり、国公立大学とみなされ、これまで絶望的に思えた学生集めには光が射してきます。しかし、国立大学法人、公立大学法人とも将来が明るいわけではなく、いずれ淘汰の時代が必ずやってきます。これまで以上の面倒見の良い教育と就職支援が必要で

わたしが所長をしている総

合研究所所属の山本哲也教授がカシオとともに「酸化亜鉛」による透明導電膜の作成に成功したと2008年4月24日の日経産業新聞一面のトップに掲載されました。液晶などに使われている透明導電膜はITO（酸化インジウムスズ）ですが、ITOの主成分であるインジウムがいわゆる希少金属で、液晶テレビなど大型のフラットテレビの普及によりインジウムの需要が増大し、数年で資源が枯渇してしまう心配もあり、政府が07年度から開始した希少金属代替のプロジェクトの一環として山本教授の研究テーマが「透明電極向けITO代替材料開発」に採択され、先の記事はその成果の一つです。このように高知工科大学は最先端の研究でも頑張っています。来年3月までに行われる入学試験は私立高知工科大学としての最後の試験になる予定です。指定校制度、各種の推薦入試など、公立大学法人では設定が難しくなる私立大学としてのあの手この手で受験生を集めるための入学試験が予定されています。是非、お近くの受験生に受験をお勧め下さい。

ふるさとへの手紙 (十一)

早稲田大学創造理工学研究科建設工学専攻河川工学研究室修士二年

北添 哲也 (78 回生)

先日(2008年5月5日、第一回ヒクソン・グレイシー国際柔術大会が静岡県浜松市で開催されました。この大会は、日伯交流年・ブラジル移住100周年記念行事として外務省から認可を受けたものでした。私は、大会のスタッフとしての参加でしたが、こころでもまた「Root」を感じることとなりました。

大学に入學してから偶然なのか必然なのか、ブラジリアン柔術という競技に出会い、気が付いたら、試合のためにアメリカへ行くなんていうところまでのめりこんでいました。私は現在、アクシス柔術アカデミーという道場に所属



がないのですが、渡辺先生は年に数回ヒクソンのところへ行って練習していると言っています。そういった話も聞いていたのですが、先日の国際柔術大会は私にとって大変感慨深いも



ヒクソン先生と

のになりました。それは、ヒクソンが私の先生に教えたものが私たち生徒に伝わっている。私は大会運営中にヒクソン先生の姿を目の当たりにし、自分が今のめりこんでいる柔術の「Root」を肌で感じ、感動しました。

土佐中学・高校で過ごした六年間、橋本正視先生が顧問を務める剣道部に所属し、汗を流していました。橋本先生は、「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉をまさに行動で示す人でした。先生の思うように出来ない私たちに対しても根気強く指導してくださいました。先生との勝負稽古は、自分にとっても自信をつけさせてくれる大切なものでした。

その橋本先生が今年で44年間の教師生活をご卒業するということで、今年の3月22日(土)に剣道部のOB会の尚武会が主催した「橋本正視先生に感謝する夕べ」に参加し、先生が土佐高校に来るまでの

経緯などまさに先生の剣道人生の裏側を聞くことができました。

先生は、土佐清水高校を卒業し、剣道の名門国士館大学においてそのキャリアを積み、大学卒業後土佐高校へ赴任してきています。国士館の剣道である正々堂々と戦って勝つ、そのような剣道の流れが自分の剣道にも入っているのだと感じ、体が熱くなりました。



橋本先生と

たのを今でも覚えていてます。橋本先生が指導する剣道部のなかで、どんなに困難な状況でもあきらめずに努力し続ける精神、限られた環境の中で工夫する頭、優れた先生・先輩・同輩・後輩のつながりを得ました。これこそが今の私を形成する「Root」になっていると確信しています。また、先生が顧問だったからこそ部活は遊びじゃないという強い思いのある土佐高校剣道部ができたのだと思います。その剣道部での厳しい上下関係、中学一年時の雑用などに入部当初は戸惑うこともありましたが、魅力ある先輩達だったからこそ耐えることが出来たと感じています。部活だけでなく勉強においてもすばらしい成績を残す先輩達が身近にいたことも、とても刺激的な環境でした。

改めて思い返してみると、橋本先生は、父の中学二年時の担任であり、父(46回)・兄(76回)・私含めた親子三代(剣道部に関しては兄と私)にわたって大変お世話になった先生です。小学校の頃から剣道をしていた私に「土佐へ来なさい」と声を掛けてくださり、小学生ながらに嬉しかっ

けがえのない「Root」です。

第13回 はちきん会

新緑の美しい4月19日(土)
正午より「第13回はちきん会」
が開催されました。場所は、
今話題の東京ミッドタウン内



の超高級ホテル、リッツ・カールトン東京。今回は市川直介氏(53回)がナイトを引受けて下さり、16回生から83回生までの59名が楽しく賑やかで、美味しい時を過ごしました。

清水美保子(33回生)

誘われて久しぶりに出席した「はちきん会」は元氣な若々しい女性で満席の盛況ぶり、校長先生はじめナイトとしてサポートして下さる男性陣は控えめに、でもしっかりとちきんを見守って下さった。

校長先生の「建築資金への募金を」との呼びかけを胸に収め、先輩の話に耳を傾け、後輩の活躍に拍手を送る女性たち、三世代が集うこの会は同窓生の強い絆で結ばれ、時に土佐弁も飛び出し和やかで氣楽で楽しいものだった。

隣に座った大先輩の男性は「○○ちゃんは彼氏ができたかな」と若い後輩を呼び寄せたりして。何時の間にか古希に近づいてしまったが、多くの若い女性たちにはこのような場で情報交換し、出会いをチャンスに変えて大きくは

ちきん力を伸ばして欲しいと思う。忙しい時を割いて企画して下さった方々に感謝しつつ、解散後は同学年のおしゃべり二次会を続け、こじやんとええ土佐時間に浸かった若葉の光る春の午後だった。

田口祥子(55回生)

新緑が輝く、さわやかな季節。

リッツカールトンホテルにて、『はちきん会』が華やかに催されました。

丸テーブルに着席形式。若い世代も多く参加していました。『はちきん』の集うパワー、若々しいエネルギーもさるこ



とながら、芸術的なお料理の美しさにも圧倒されました。一味違う凝ったお料理の数々！目にも楽しく、美味しく、春を謳歌する蝶々のように、あちらの花(お料理)にひらひら、こちらの花(お料理)にヒラヒラと贅沢な舞に興じておりました。

宴もたけなわ、元ガイナー大 使、35回生の浅井和子先輩のお話がありました。初めは、夫に比べ、良妻賢母を実践なさっていたけれど、フト「なんかおもしろくない」と、夫君に内緒で勉強を始め、弁護士資格を取り、次に、パブリックな仕事をしたいと話を決めてから、夫君に事後報告バトルの末、ガーナ大使になられたというお話を伺い、まさに『はちきん』！アッパレ！

最後には、夫君の30回生、浅井伴泰先輩に感謝の言葉を伝えるというほほえましい場面があり、終始なごやかに会は進みました。

現役で(産婦人科医として)

お仕事なさっている28回生の青嶋武子先輩をはじめ、男性4人以上のパワーを持った女性のエネルギーに満ちた会で、キラキラする宝石箱の中にいるようでした。市川直介「ナイト」先輩のお陰で、我々女性陣はこんなワンランク上の会場で、素敵なお時を過ごさせていただき、感謝、感謝です

和田華子(70回生)

「仲間」

今回、初めて「はちきん会」に参加させて頂きました。

今年は社会人になって10年目の節目の年。この10年、ただただひたすら突っ走ってきたように思います。母校の集まりに参加する機会もなく、あつという間に月日が流れました。しかし、不思議なものです。今年は、年初めて70回生の4年に一度の同窓会もあつたり、自然と土佐校の卒業生



卓球マンは物真似がお好き

中村誠三さん の巻

幹事たちの伴侶①

真夏の東京・表参道のメイ
ンストリート。「ロッセ・ガー
ナよさこい連」の踊り子チー
ムに声援を送る一人の老紳士
がいた。

中村誠三さん―妻の裕子さ
ん(37回生)の追っかけであ
る。中村さんは江戸時代から
続く生粋の江戸っ子。今は木
更津に移り住んで十年を越し
た。

「家内が故郷を愛し、母校
を愛しているのをみると、こ
ちらも何かしなくちやと思ひ
ますよね」

活動的な裕子さんを車に乗
せて東へ西へ、70歳を越して
も苦にならない。フットワー
クの良さは中学から始めた卓
球のおかげかも知れない。当
時大学生だった伝説の名選手
荻村伊智朗氏(元世界チャン
ピオン・故人)から、
努力すれば海外も夢で
はないと励まされたのが
今でも宝物として心
に残っている。

数多くの試合に出て
活躍、「ペンカットの
中村」の異名を取った。
卓球仲間の飲み会が自
宅で開かれることもし
ばしばだ。

座が盛りあがる頃、
突然中村さんの呂律の
回らない声が響く。酒
を飲まない人がどうし
たことかと初めは驚く。
「ちよいと一杯のつ

「酔っぱらった口調でやれば植木等になりま
す」と語る中村さんは、お酒は飲まない。
〓今年3月相模大野にて



もりで飲んで」聞こえてきた
のは植木等の歌だった。

「ものまねが大好きで」二
十代の頃はテレビ、ラジオの
素人ものまね番組にしょっち
ゅう出ていた。プロの芸人を目
指した時期もある。春日八郎、
田端義男など、ものまねのレ
パートリーは四十数人という
から半端じゃない。

「とにかく人に喜んでもら
えるのが嬉しいんです」

土佐校「ハイクの会」にも
参加する。主導の38回は芸達
者で知られるがそのメンバー
たちも一目置いていて、登山
往復のバスの中、得意の芸を
演じて笑わせる中村さんは今
や同窓会の特別会員のような
存在である。

夫婦揃って世話好きで仲良
しぶりは微笑ましく、傍から
はいささか熱い。

(41回 岩村康生)

に会ってみたいなと思うよう
になりました。自分の原点を
振り返る余裕がここにきてやつ
と出てきたのかも知れません。
今回、「はちきん会」にて、
多方面でご活躍されている諸
先輩方の貴重なお話を伺う事
ができました。またテーブル
を囲みながら、大先輩であり
ながらもさつくばらんにお話
し頂き、先輩方が積み上げて
こられた土佐高校の伝統の重
みを感じ、改めて土佐高卒業
生であることに誇りを感じま



した。

社会人に
なつて沢山
の人に出会
いました。

しかしなが
ら、何かあ
るとやはり、
土佐高校の

「仲間」に戻ります。6年間
一緒に同じ時を過ごした「仲
間」の存在はかけがいのない
ものであり、これまでも何度
も何度も助けられています。
この「仲間」が横の繋がりが
でなく、縦の繋がりがとして
も成り立っている。やはり、
土佐高校の強み、凄さはここ
にあるのではないかと思います。

今回「はちきん会」に参加
し、先輩達が築いてこられた
この繋がりをこれからも大切
にしていきたいと思ひました。
そして、同時に元を辿るとこ
の環境に身を置かせてくれた
両親のお陰だと感謝致しまし
た。

次回も楽しい企画を考えて
おります。大勢の方のご出席
をお待ちしております。

佐々木 (33回)

金澤 (55回) 西森 (57回)



★出版リーダー★

高知工科大学大学院企業家コース

「共育宣言」

1575円 丸善

「ここからは雑誌に掲載されています」

「FODS政治 実長期政権狙い」総選挙は「2008年9月以降」
週刊東洋経済 (6120) 2008.1.12

黒鉄ヒロシ(41回生)
Mr. BEST SONG第12回「悲しき雨音 黒鉄ヒロシ」漫画家
「暗殺」の年 誰が龍馬を殺したか」
週刊新潮 (5244) (通号 2621) 2007.11
現代 (426) 2008.5

黒鉄ヒロシ(41回生)

「暗殺」の年 誰が龍馬を殺したか」

週刊新潮 (5244)

(通号 2621)

2007.11

現代 (426)

2008.5

「座談会 DBSの現在・過去・未来 永井賞と水島賞をめぐって」

Drug delivery system 23(1) (通号 117) 2008.1

「薬物体内動態におけるαβタンパク質の役割」MR3-MR4

(特集) αβタンパク質の基礎と臨床」

最新医学 (5211) (通号 782) 2007.11

「さよなら、カメラマン」(追悼 若菜みどり)」

ユリイカ 38(13) (通号 542) 2007.11

「職場のメンタルヘルス講演は適切か」

「うしろの科学」(通号 137) 2008.1

「実地診療における精神症状の診立てと向精神薬の選び方」(特

集) フライマリケアにおける向精神薬の上手な使い方」

日本医師会雑誌 136(6) 2007.11

「うつかなまけか」が問題となる人ー精神科医の立場から

(職場復帰ーうつかなまけか)」

「うしろの科学」(通号 135) 2007.9

「第22回日本家庭医療学会学術集会」

月刊地域医学 21(9) (通号 251) 2007.9

森岡正博(52回生)

「腔内射精精性暴力論の射程ー男性学から見たセクシュアリティ

と倫理」

「倫理学研究」(38) 2008

「今月の問題点」対談 移植と人工臓器の哲学(特集 移植と人

工臓器の哲学ー医療従事者へのメッセージ)」

成人病と生活習慣病 37(12) (通号 436) 2007.12

門田隆将(53回生)

「フルスイング」高島卓宏「教えない名コーチがくれた男

気」(癒しのワイド特集 いまだき泣ける「うちとこい話」)」

週刊現代 50(12) (通号 2468) 2008.3

英保未来(54回生) (ペンネーム 大森望)

「大森望の5観光局(第17回) スラデック・アット・ランダム」

5マガジン 49(6) (通号 625) 2008.5

「貴志祐介インタビュー「新世界より」ー驚異のリーダービ

リティを注ぐる傑作本格浮城場」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第16回) 作家への長い道」コンテスト回

顧」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第15回) ウィー・アー・ハンサム」

5マガジン 49(3) (通号 623) 2008.3

「大森望の5観光局(第14回) 新・世界の宝を立ち上げろ」

5マガジン 49(2) (通号 622) 2008.2

「商人と錬金術師の門」(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「特集解説(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「科学と魔法はどう違うか(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

川島卓弘(33回生)

「極秘のスタンド事典(総特集 荒木飛呂彦ー鋼鉄の魂は走り

つづける)」

ユリイカ 38(14) (通号 543) 2007.11

尾池和夫(34回生)

「インタビュー 日本は地震の活動期に入ったか」

人環フォーラム (22) 2008.3

浅井和子(35回生)

「日本と方ナ、これまでこれから(カントリー・イン・フォー

カスガナナ」外交フォーラム 28(10) (通号 231) 2007.10

野田正彰(37回生)

「震災の記憶を贈る(第8回) 今も続く精神的外傷」

世界 (777) 2008.4

「震災の記憶を贈る(第7回) 勞工之歌」世界 (776) 2008.3

「震災の記憶を贈る(第6回) 避難者を絶望させた和解」

世界 (775) 2008.2

「震災の記憶を贈る(第5回) 人倫としての花岡蜂起」

世界 (773) 2008.1

柿田睦夫(38回生)

「お葬式OKA(お葬式を考えた)」

女性のひろば (通号 350) 2008.4

塩田潮(40回生)

「ポスト福田」は麻生か、小沢か、それとも小泉か 解散は

？再編は？「濁流政局」3つのシナリオ」

プレジデント 46(10) 2008.5.19

「年金、テロ特措法……」

「10月、7月」地雷が永田町

を丸ごと揺さぶる「自民の民主 非常事態政局3つのシナリ

オ」

「霞が関が狙う「逆襲のシナリオ」(「官僚た」の迷宮)」

潮 (通号 590) 2008.4

「戦後憲法政争史(第16回) 「非核三原則」憲法」の枠組みを

守りつつ沖縄返還を求めた佐藤栄作」

ニューリーダー 21(4) (通号 246) 2008.4

「この人に聞く 政党内の「おじい」解消が政界再編の起爆剤

になる「環境」を旗印に政界の新しい動きを創る」

ニューリーダー 21(4) (通号 246) 2008.4

「戦後憲法政争史(第15回) 池田政権「所得倍増」を大成功に導

いた官僚主導体制の功罪」

ニューリーダー 21(3) (通号 245) 2008.3

「戦後憲法政争史 象徴天皇の政治利用「国政との遮断」の禁

を破る為政者たち」

ニューリーダー 21(2) (通号 244) 2008.2

「戦後憲法政争史(第13回) 重光・ダレス会談以来半世紀越える

憲法上の火種「集団的自衛権」

ニューリーダー 21(1) (通号 243) 2008.1

「FODS政治 マシギレ福田首相、難局打開の妙案な」

週刊東洋経済 (6138) 2008.4

「FODS政治 「開かない政治」に国民がそごほ」

週刊東洋経済 (6134) 2008.3

「FODS政治 成熟度が試される政党、日銀、財務省」

週刊東洋経済 (6127) 2008.2

「FODS政治 成熟度が試される政党、日銀、財務省」

週刊東洋経済 (6127) 2008.2

週刊東洋経済 (6127) 2008.2

黒鉄ヒロシ(41回生)

「座談会 DBSの現在・過去・未来 永井賞と水島賞をめぐって」

Drug delivery system 23(1) (通号 117) 2008.1

「薬物体内動態におけるαβタンパク質の役割」MR3-MR4

(特集) αβタンパク質の基礎と臨床」

最新医学 (5211) (通号 782) 2007.11

「さよなら、カメラマン」(追悼 若菜みどり)」

ユリイカ 38(13) (通号 542) 2007.11

「職場のメンタルヘルス講演は適切か」

「うしろの科学」(通号 137) 2008.1

「実地診療における精神症状の診立てと向精神薬の選び方」(特

集) フライマリケアにおける向精神薬の上手な使い方」

日本医師会雑誌 136(6) 2007.11

「うつかなまけか」が問題となる人ー精神科医の立場から

(職場復帰ーうつかなまけか)」

「うしろの科学」(通号 135) 2007.9

「第22回日本家庭医療学会学術集会」

月刊地域医学 21(9) (通号 251) 2007.9

森岡正博(52回生)

「腔内射精精性暴力論の射程ー男性学から見たセクシュアリティ

と倫理」

「倫理学研究」(38) 2008

「今月の問題点」対談 移植と人工臓器の哲学(特集 移植と人

工臓器の哲学ー医療従事者へのメッセージ)」

成人病と生活習慣病 37(12) (通号 436) 2007.12

門田隆将(53回生)

「フルスイング」高島卓宏「教えない名コーチがくれた男

気」(癒しのワイド特集 いまだき泣ける「うちとこい話」)」

週刊現代 50(12) (通号 2468) 2008.3

英保未来(54回生) (ペンネーム 大森望)

「大森望の5観光局(第17回) スラデック・アット・ランダム」

5マガジン 49(6) (通号 625) 2008.5

「貴志祐介インタビュー「新世界より」ー驚異のリーダービ

リティを注ぐる傑作本格浮城場」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第16回) 作家への長い道」コンテスト回

顧」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第15回) ウィー・アー・ハンサム」

5マガジン 49(3) (通号 623) 2008.3

「大森望の5観光局(第14回) 新・世界の宝を立ち上げろ」

5マガジン 49(2) (通号 622) 2008.2

「商人と錬金術師の門」(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「特集解説(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「科学と魔法はどう違うか(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

黒鉄ヒロシ(41回生)

「座談会 DBSの現在・過去・未来 永井賞と水島賞をめぐって」

Drug delivery system 23(1) (通号 117) 2008.1

「薬物体内動態におけるαβタンパク質の役割」MR3-MR4

(特集) αβタンパク質の基礎と臨床」

最新医学 (5211) (通号 782) 2007.11

「さよなら、カメラマン」(追悼 若菜みどり)」

ユリイカ 38(13) (通号 542) 2007.11

「職場のメンタルヘルス講演は適切か」

「うしろの科学」(通号 137) 2008.1

「実地診療における精神症状の診立てと向精神薬の選び方」(特

集) フライマリケアにおける向精神薬の上手な使い方」

日本医師会雑誌 136(6) 2007.11

「うつかなまけか」が問題となる人ー精神科医の立場から

(職場復帰ーうつかなまけか)」

「うしろの科学」(通号 135) 2007.9

「第22回日本家庭医療学会学術集会」

月刊地域医学 21(9) (通号 251) 2007.9

森岡正博(52回生)

「腔内射精精性暴力論の射程ー男性学から見たセクシュアリティ

と倫理」

「倫理学研究」(38) 2008

「今月の問題点」対談 移植と人工臓器の哲学(特集 移植と人

工臓器の哲学ー医療従事者へのメッセージ)」

成人病と生活習慣病 37(12) (通号 436) 2007.12

門田隆将(53回生)

「フルスイング」高島卓宏「教えない名コーチがくれた男

気」(癒しのワイド特集 いまだき泣ける「うちとこい話」)」

週刊現代 50(12) (通号 2468) 2008.3

英保未来(54回生) (ペンネーム 大森望)

「大森望の5観光局(第17回) スラデック・アット・ランダム」

5マガジン 49(6) (通号 625) 2008.5

「貴志祐介インタビュー「新世界より」ー驚異のリーダービ

リティを注ぐる傑作本格浮城場」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第16回) 作家への長い道」コンテスト回

顧」

5マガジン 49(4) (通号 624) 2008.4

「大森望の5観光局(第15回) ウィー・アー・ハンサム」

5マガジン 49(3) (通号 623) 2008.3

「大森望の5観光局(第14回) 新・世界の宝を立ち上げろ」

5マガジン 49(2) (通号 622) 2008.2

「商人と錬金術師の門」(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「特集解説(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

「科学と魔法はどう違うか(テッド・チャン特集)」

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1

5マガジン 49(1) (通号 621) 2008.1